

サロ

ン

あべの

NO.

97

出合い ふれあい 助け合い

サロン寄席
にぎやかに開演

古印亭勝丸



味付亭紺染



高島屋ばらの丞



サロン・あべの6月の出合い

サロン・あべのの6月の出合いは、梅雨空を笑いで吹き飛ばそうと企画した、「サロン寄席」であった。94年6月18日(土)、幸分ホールに、『パンセ羽衣寄席』のみなさんをお招きして、にぎやかに開演した。

出し物は、高島屋ばらの丞さんの「ちりとてちん」に始まり、味付亭紺染さんの「うなぎや」、古印亭勝丸さんの「音占い」、菊乃家丈太郎さんの「道具屋」、そして、緑家ぼん太さんの「桃太郎」と続いた。

寄席の雰囲気も、サロン・あべので味わっていたらこうと、

今回初めての企画ではあったが、5人の出演者のみなさんの落語に、会場は爆笑の連続であった。

『パンセ羽衣寄席』のみなさんは、毎月第1土曜日の午後、高石市の羽衣公民館で寄席を開いておられ、落語のほか、踊りや手品などの出し物で、楽しませていただけるそうである。今回のサロンに参加できなかった方や、参加はしたが、まだまだ笑い足りなかったという方など、一度行ってみられては?

参加者は35名。(上平幸雄)



菊乃家丈太郎



緑家ぼん太



初のサロン寄席で、幕を開けるまでお客さんの入りが心配でしたが、大入袋が出るくらい……。大いに笑ったあと、お客さんの評判を聞いてみました。

☆初めての参加

菊地 健

○落語で笑わせていただきました。

今日五人の方は、終わるころには前から知り合いの様な気持ちになりました。

○初めて、こちらに寄せてもらいました

ごく自然な集まりだと思いました。

○また、来たいと思います。



苦勞の中にも笑いが…

木村 圭子

久しぶりにハサロン・あべのVで楽しいひとときを過ごさせていただき、ありがとうございます。

人を笑わすお話は、いろいろと聞いている人にわからない苦勞がある。でも、その事でも人に笑ってもらって、人の心を明るくする。

楽しい出会いの場、すばらしい感動です。

やはりハサロン・あべのVは、すばらしいの一言です。

い

本日に、今日はありがとうございました。



あそびごろの演出

寄席 好男

今日の寄席で、客席にまで配られた「大入袋」は心にくい演出でした。

サロンさんのあそびごろも、なかなか

のもの。



おなかの底から笑った

○○○

色々な落語が聞けて、とっても楽しかったです。

久しぶりに、おなかの底から笑えました。



おじやましました

鈴木 昭二

六月八日、東淀川区淡路において、第三

回「ウイズ東淀川」の準備会がありました。

この日は、「サロン・あべの」を九年間

続けてこられた冨田様をお迎えして、「サ

ロン・あべの」の成り立ちから、苦勞され

たこと、心に残った話、ちよつと気付かれ

たことなど、たいへん丁寧にお話してい

いただきました。

六月十八日には、「サロン亭」と銘打っ

て初めての落語会を催されるとのこと。

これは是非、見学させていただきたいと

思い、参加させていただきました。

地下鉄「西田辺」駅には一時頃着き、『

これは少し遅れるな』と思っていました。が、

駅からすぐだし、迷わずに行きましたので、

なんとか遅刻せずにすみました。

司会者の挨拶の後、アマチュア五人の落語を楽しみました。素人とは思えない話芸、あの独特な落語家の口調や、プロ顔負けのおしゃべりには感心しました。

落語を五題続けて聞かせていただいた後、客席の前に勢揃いされ、色々な体験の話や、

質問に答えておられました。

私も一つ、聞いてみました。

『各人それぞれ、持っておられるネタは、どのくらいあるのですか?』

という質問に、古印亭勝丸さんは数百、あとの方々は五、二十ぐらいということでした。

＊笑うに笑えない話

田平雅之

私の友人の視覚障害者M君の話。

彼は、某外科医院に勤める「セラピスト」(つまりは理学療法士)だから、仕事から当然患者の体に触れることが多い。

ある日、女性の患者に対して彼は、「うつ伏せになって下さい」と指示した。

ところが何を勘違いしたのか、その女性は、「仰向け」になっていたそう。

そうとは知らないM君、女性の肩甲骨のあたりを押さえたつもりだった。

のだが…。(後は想像して下さい)

びっくりしたM君、慌てて手を離したがそれ以上にびっくりしたのは、女性患者の方だっただろう。

「いやーあの時は、冷や汗が出ましたよ」と彼は笑い飛ばすけど、こういうことが時には「笑い事」で済まない事態に発展することがあると思う。

それ以外では、若い女性患者の中でスカートで来られる人、こういう人にも大変に気を使うという。

「病院に来るのに、格好なんか気にする必要はないと思うんですけどね」

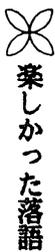
視覚障害者M君のお願いでした。

それにすべて、ラジオやテレビで、見たり聴いたりして覚えた独学だそうで、これまたビックリした次第です。

出演者の皆さん、楽しい時間をつくっていただきありがとうございました。帰り際には、大入袋までいただき、嬉しい気分になりました。

私たちの東淀川でも、七月十七日(日)に第一回「ウイズ東淀川」の講演会を開催することになりました。「サロン・あべの」の富田様の理念である「ノーマライゼーション」って何やろ、自分たちにとっての「ノーマライゼーション」とは? というテーマに共感して、私たち自身の「ノーマライゼーション」を追及したい気持ちで「ウイズ東淀川」を運営していきたいと思っています。

どうぞ、「サロン・あべの」の関係者の皆様、よろしくご指導・ご援助いただきますようお願いいたします。



△△△

私は、元々落語が好きなので大変楽しかったです。

日頃の練習の成果がよくでていたと思います。御苦勞様でした。今後も楽しい企画をお願いします。



初のサロン寄席

☆ 大阪辯が好き

□ □ □

落語は好きですので、楽しく聞かせていただきました。ほのぼのとした、のんびりとした大阪辯が大好きです。また、次のチャンスにお願い致します。

◇ 「大人袋」に感謝

須賀 茂登子

本当に楽しい企画で、ありがとうございます。また、一人で笑うより、仲間が集まって、いっしょに笑うことは素晴らしいことですね。

落研の出身の五人の方々が、さわやかな印象で面白く、プロ並みの力量で十分たのませていただきました。ハサロン・あべのVの昼席、「大人袋」までいただいて、感謝です。



はるばると横浜から

K

長いハサロン・あべのVでも、サロン亭「落語の会」は初めての試みとあって、はるばるやってまいりました甲斐もあつたというもの。

なかなかに達者なおはなしぶりに、びっくり・・・

特に雑談部が、よくぞぶっつけで・・・息のあつていること・・・

こんどは漫才と南東京玉すだれを、お願いします。



またの企画を楽しみに

山梨 徳治

楽しいひと時を、ありがとうございます。ひさしぶりに落語をナマで聞かせてもらった。上手下手でなく、一生懸命なところがよかった。

またの企画を楽しみにしています。ボランティア的な活動は、続けるのがむずかしいと思いますが、永く続けられるようお願いいたします。



初めての生落語

岡井 淳治

テレビでは、見たことがありましたが、生でゆっくり落語を見たのは初めてでした。久しぶりに笑わせていただきました。また、来月も参加したいと思っています。手づくりのサロン、とてもよかったです。



着物姿がステキ

け

落語の題名を聞くと、いつか聞いたことがあるものはかりでしたが、その本芸に入

るまでのまからは、その人独特の雰囲気で大いに笑わせてもらいました。そして、気がつくとも手ぶり身ぶりも軽やかに語られている本題の落語の話にすっぱりはまっています。

ました。

それにしても、きちっと身についた芸と着物姿はステキでした。

紅一点のぼん太さんの紺地の浴衣姿の可

大募集



出合い一〇〇回・サロン紙一〇〇号を記念して、サロンへ寄せて下さる皆様の想いや感想、出合い、ふれあいのひとことお寄せください。お待ちしております。

〆切は八月二十五日

掲載は十月号(本紙一〇〇号)

憐なこと。男性方の色鮮やかな着物姿は、

「おしゃれ」の一語。特に白地の長着の下に紅い長襦袢がほんのり透かして、時々手の動きにつれて袖口から見え隠れする紅色は、言葉以上の演出を感じました。



よくぞ出演してくれました

石田 律

「おもろい姉ちゃん」の連載が始まってすぐ、田淵さんに「落語」という企画が出た。そもそも府大の落研OGであることから、連載の題名がつけられたくらいだから、その実力はすごいものと想像はしていたが、言を左右になかなか出演OKがもらえなかった。根気よく、ひつこく、うるさくお願いをしてとうとう今回のサロン寄席開催の運びとなったのである。

聞いてびっくり。想像以上も以上、能ある鷹の爪のすこさに脱帽。

プロはだしのパンセ羽衣寄席のみなさん、出囃子もない、毛せんもない、名ピラもない、ないないづくしのサロン寄席にはもう一度と出たくない。なんていわないで……次回も達者な芸を聞かせてください。

忙しさを恥じる

なるべく言わないようにしている言葉がある。それは「忙しい」という言葉だ。「お忙しいでしょう」と言われると、「いいえ、それほどでも・・・」と答える。「へええ・・・」と相手はたいてい意外に思うようで、次の言葉がでてこない様子を見て、楽しんでいたりする。

私の仕事は、「忙しい」人間には向いていないと思う。私の大学教員としての仕事は研究と教育であるが、これはどちらか暇にしていけないと充分にできるものではない。

教育というのは、講義をしたり、演習の時間を担当したりすることだが、もっと大事なものは、ひとりひとりの学生さんとの雑談のなかにあると思う。教員のなかには、学生に対して自分と個人的に会うときには、あらかじめ会う時間を約束するように指示する人がいるが、ビジネスをやっているわけでもあるまいし、私はそういう考え方は好きではない。話したいときに人間は話すのであって、スケジュールを調整して、やっと一週間後に会ったときに

は、もう話したいという気持ちがなくなっているものだ。私としても、聞いていて面白いのは、ふだんからの学生たちの気持ちであって、一週間前から何を言うかを考えて整理され要約された言葉ではない。

もうひとつの仕事である研究でも、暇は大切なものだ。ポーツとして天井を向いて寝てたり、暇にまかせて空想にふけつていたりすると、新しいアイデアが出てきたりする。期限に迫られて、お慌てで書いた原稿など、ろくなものはない(実は、恥ずかしいことに、これ自身も、そういう原稿なのである)。

「忙しい」のは、自分の能力を越えた仕事の量を引き受けてしまっている自分が悪いのである。はつきりと断れない弱さである。自分の生活の流れを自分で決めることができず、周りから決められてしまっている無力な、情けない状態なのである。

「忙しい、忙しい」と自慢げに言っている人がいるが、趣味の活動で忙しいのならばまだいい。しかし仕事で忙しい

すぎるのは、おそらくは人間的には貧しい生活だろう。

ただ、自分で仕事を増やしてしまい苦しい思いをしている人にも理由がないわけではない。仕事で忙しくしていると、「自分は周りから必要とされ、評価されている人間なのだ」という幻想のなかに身をおくことができる。また、仕事の量を増やすことによって、収入が増えたり、虚栄心や名誉欲が満たされたり、自分の影響力を大きくすることができると。自分の能力を越えて仕事を引き受けてしまうのは、そういう欲に負けてしまっている状態なのである。

いかにも暇人(ひまじん)のように、ふいにおとされた人の話をゆったりと聞くことができ、「あの人、いつ仕事をしているんだろうね」と言われながら、余裕の笑みを浮かべている人になりたいものだ。

私たちのあいだでは「暇人」といえば軽蔑的な響きがあり、「ご多忙のところ失礼します」という挨拶があるなど、多忙をもって尊しとする文化がある。しかし人間らしさや文化というのは、暇人がいてはじめて成り立っているものかもしれないのである。(知)

●高齢者と在宅介護 10

●井元 真澄

三、脳卒中による要介護高齢者への

援助課題(3)

《研究の結果》

研究の結果は、第一に、脳卒中による要介護高齢者(在宅)の全体像、第二に、脳卒中による入退院から在宅への連携状況、第三に、在宅でのリハビリテーションの受療や各種の保健福祉サービスの利用状況、の三点に分けて分析しています。

なお、前回説明いたしました、要介護高齢者調査の対象者は四四一名、そのうち脳卒中を主原因として介護が必要になった人は九八名です。

1. 脳卒中要介護高齢者(在宅)の全体像

①ねたきりと脳卒中

脳卒中を主原因とする要介護高齢者九八名におけるねたきりの割合は、三三・六％となつています。この調査時点では、いわゆる「ねたきり基準」も無かったため、「ねたきり」の定義は、質問項目の「ほとんどねたき

り(ひとりでまたは手助けがあれば、トイレと食事には寢床を離れられるが、あとは寢床の上の生活)」、「ねたきり(介助され、または自分でなんとか歩いてトイレに行くが、それ以外は寢床の上の生活)」、「まったくのねたきり(排便はすべて寢床の上で便器を使用する、またはおむつを常時使用している)」の三項目を合わせたものとしています。

②性別と脳卒中

要介護高齢者調査の対象である四四一名(男性一三四名、女性三〇七名)について、

男女別で要介護状態の主たる原因疾患をみると、男女とも、原因疾患としては「脳卒中」が第一位となっています。しかし、その割合をみると、男性は「脳卒中」が三三・六％で三分の一を占めているのに対し、女性は、十七・三％にとどまっています。女性は、脳卒中以外に、「事故・骨折等の外傷」(十一・七％)、「リウマチ・神経痛」(九・四％)などがあがっています。(原因疾患を特定していない者は、男性二十九・一％、女性三十九％です。)

これより、女性よりも男性のほうが、脳卒中が原因で、在宅で要介護状態にある割合が高いことがわかります。これには、脳卒中の発生率が男性のほうに高いこと(※)をはじめとして、様々な理由が考えられます。

なお、今回の分析対象である脳卒中要介護高齢者九八名の男女比は、男性四五・九％、女性五四・一％で、やや女性の方が高い程度となっています。

③年齢階層と脳卒中

四四一名のうち、脳卒中要介護高齢者としての他の高齢者の年齢階層を比較しました。その結果、脳卒中要介護高齢者は七〇代が約六割を占め、平均年齢は七五・〇歳です。その他の要介護高齢者は、平均が八一・三歳となっており、脳卒中要介護高齢者の方が六・三歳若くなっています。これについては、検定の結果、有意な差が認められています。

(※)厚生省大臣官房老人保健福祉部

老人保健福祉課監修

『寝たきりゼロをめざして』

中央法規出版、一九八九年、一八ページ。

涼をよぶ・・・

祇園祭・天神祭のころ、といえは一年の中でいちばん暑い季節。いかがが過ぎるのでしょうか？

● 河合恵子

作る

つくる

創る

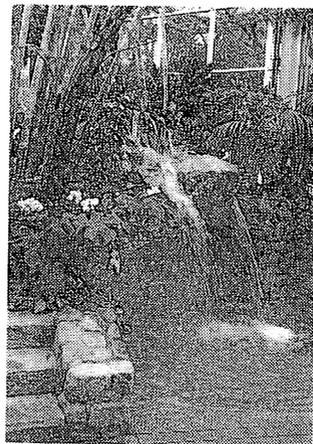
12

いまでこそ、クーラーという便利なものがありますが、(もつとも冷房は嫌いというひともしらつしやるでしょうが)冷房や扇風機などなかった時代の夏はさぞかし大変だったことでしょう。でも扇子を手に絹や紗の着物をきつちりと着こなしているひとに出会ったり、あるいは浴衣に下駄をはいて団扇をあおぎながらの夕涼みというのは風情のあるもの。

七月二十六日から九月四日まで東京都江戸東京博物館では「江戸の夏 その涼と美」と題した展覧会が開かれます。夕涼みや花火を楽しむ浮世絵美人、夏の単衣や浴衣、びいどろの食器や屏風など、暮しのなかに凝らされたさまざまな工夫の品々の展観とともに朝顔、ほおずき、金魚の展示即売、江戸風鈴の絵付け体験教室、水鉄砲などの竹細工教室、羽二重のつまみかんざしや江戸切りカッタ教室、怪奇映画の上映や怪談話と盛りだくさんの趣向です。

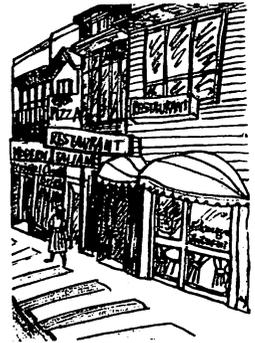
この博物館があるのは両国。隅田川をはさんで浅草の東側。大相撲の行われる国技館があることで知られていますが、隅田川の花火大会も有名。今年も多くの人出でしょうから、テレビの前で冷たい飲物でも用意して鑑賞させていたどころかしら。やはり夏は鮎の塩焼、酢みそや梅肉でいただく、「はも」枝豆、焼きなす、それに氷を浮かべたそうめん・・・小さな川えびのてんぷ

らというのもおつまみに美味。皆様はどのような夏のお料理がお好きでしょうか。できるだけ調理時間が短くて、簡単でしかもおいしいおかずが一番。盛りつけは出来るだけ涼しげなガラスの器。デザートに梅ゼリーなんていうのはいかが？



毎月の楽しみ

毎月「作る つくる 創る」欄を楽しみにしています。文化のかおり、芸術のかおりをさりげなく語りかけてくれて、嬉しく拝見しています。 S



はあとが、はろー！

出合い一〇〇回

富田 慶子

△サロン・あべのVが発足して、今月(平成六年七月)の出合いで一〇〇回目を迎えました。

この間、何人の方々に出合ってきたでしょうか。毎月のパネラーの方だけでも百人になります。そして、出合いに参加下さった方々を月平均二五人としましたら、カーニバルは別にして延二五〇〇人の方にお会いしたことになります。カーニバルで出会った人も加えると数知れません。

何も出来ない、何も知らない私でしたが、今日まで△サロン・あべのVと一緒にやってこられたのは、委員方はじめ今までに出会ってきた二五〇〇人以上の方々に支えられ、励ましていただけたからだこそと思ひ、ありがたく感謝しております。

人と人との出合いは、不思議なもので、最初は偶然の出合いのように思われましても何回かの出合いを重ねていくと、その人だけのご縁ではない驚がりが見えてきます。

よく、「サロンさんは毎月、良い先生が来られますね。どのようにして、お願いするのですか?」と聞かれます。振り返ってみますと、本当にスゴイ!と思われる著名な先生方をお願いをして、気軽にOKをもらいお話をさせていただいています。

先生方へのお願いは各委員の方からの紹介が一番多いです。それだけ委員方の人脈が厚いというか、日頃の活動範囲が広いともいえませんが、それだけではない方もおられます。

平成二年三月十七日に開催しました「おしゃれで拡がるコミュニケーション」で、ニットデザイナーのあいか彩子さんにお話

をしていただきました時は、一面識も知り合もないところからお願ひ致しました。

前年にあべのボランティア・ビューローに障害者のための「おしゃれアンケート」が届きその主催があいか彩子さんでした。

アンケートに答えたというご縁だけを頼りにサロンの出合いにご出席をお願いしましたところ、快諾下さり三月の出合いとなったのでした。

あいかさんは、ニットデザイナーだけではなく、対面朗読ボランティアをされたり、福祉の勉強のために北欧やヨーロッパへも行っておられ、豊かな経験と華やかなファッションを障害者の衣服に取り入れ、その試作品が「福祉機器デザインコンペ89K YOTO」に出品、優秀賞を受けておられました。お話だけでなく、その作品も見せて欲しいとお願ひしましたところ、当日十二体のマネキン人形に着せた色鮮やかなニット作品を持参下さいました。全ての作品に障害者のための細かい工夫と、温かいおしゃれ感覚が配慮されていきました。

この時のご縁で、秋に開催されたハンディキャプトの為のファッションショー「こ

れから・・・」にサロンの山本篤江さんとサロンに参加していた浜本浩喜氏がモデルとして出演しました。会場は大阪ビジネスパークMIDシアターでした。私にとりましては、初めての場所、初めての本物のファッションショーの体験でとても感動しました。その夜の慰労会（ホテルオータニ）にもお招きいただき、華やかで夢のような一日となりました。この時テレビの取材も数多くあり、日ごろのお顔馴染みが、ロビーで感想を求められているのが、テレビ画面を賑わしていたりもしました。

平成三年九月二日の出会いで、「がんばれリサイクル」のタイトルでお話をしていただいたのは、大阪大学基礎工学部の森住明弘氏でした。

空の牛乳パックやアルミ缶の収集が資源保護だけでなく、それを通して自然保護や社会環境に関心を持ち、そこから人と人とのつながりを大切にしていくことが大事であると言われました。この時、森住氏を紹介してくださったのは、ボランテニアでピデオ等をいつも撮って下さっていた植松菊雄氏でした。植松氏がリサイクルの講演を聞きに行かれサロンにもよいのではと、森

おもしろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

お金の遣い道

「お金」

みなさんは、どんな風に遣ってらっしゃいますか？

私は、正直な話、「あるだけ使っちゃお」型の人間です。別に高価な物を買うでなく、グルメでもなく、気がつけば給料日前の通帳の残高は〇です。そんな私が、寮生さんのお小遣いの管理をするのですから、毎日悪魔と天使の戦いです。

「そんなの買うのは無駄遣いヨ」
「いいじゃない、アンタだって今

月、また新しい靴買ったでしょ」

ぜいたくは敵？

無駄遣いはしちゃいけないの？

誰が寮生さんにとって、価値あるものと判断するの？

でも、やっぱり無駄遣いはいけない！

みなさんは、お金を何に遣いますか？



住氏に話を通して下さっていたのです。それで、早速サロンにとお願いしましたところ、快く受けていただいたのでした。

昨年（平成五年）六月十九日の出会いの「こんな出会いがあったから……」私を育ててくれた人々の岩田美津子さんもボラ

ンティアをしておられる竹内新作氏のご紹介でした。全盲の岩田さんは、子育ての体験から絵本に点字を貼り、視力障害者の親が子供に絵本を読み聞かせて、共に楽しむ時を作り出され、点訳絵本「ふれあい文庫」を主宰されています。

今年(平成六年)二月十九日の出合いで「色の不思議な世界のお話」をしていたいた福永享子さんは、ハサロン・あべのVがミニコミ紙「おかあさんちよつと」の取材を受けた時、記者の富山徳子さんにご紹介を受けたのでした。

お付き合いの長い短いではなく、出会った人がどのようにサロン活動を受け止めて下さっているかが、このような豊かな講師方との出合いになったと思っております。

また、平成四年九月十九日の出合いでは、「地域福祉を創る」というテーマで桃山学院大学社会学部の上野谷加代子氏に地域福祉と生活の関わりを「役割の木」を通してお話いただきました。

上野谷先生とは、十年ほど前に市婦人会館で「地域福祉と社会福祉」の講座の時に「役割の木」で、お話を伺いお会いしてい

たのですが、その後お会いする機会もなく過ぎていました。ところが、平成三年十二月十日に大阪市社会福祉協議会主催「ボランティア活動交流会」のパネルディスカッション事例発表会にハサロン・あべのVがグループ活動のケースとして参加しましたおりに、進行役と助言者の立場で、上野谷先生が出席されておられて、そこで久しぶりにお目にかかれたのでした。

この時、上野谷先生から「サロンさんはがんばってるね」と言っていたいただきました。それで、早速お言葉に甘えて、「サロンへ来て下さいますか」とお尋ねしましたところ「時間が合えば……」とのお返事。

平成四年度のメイン企画になったのは言うまでもありません。上野谷先生には、それまでサロン紙を送りもしていませんでしたのに、どうしてサロン活動のことを知って下さっていたのかと感激したのを思い出します。この九月の出合いは、あべのボランティア・ビューローのボランティアさん方や、私の知人三人が京都から参加してくれたりして、とても盛況でした。

毎月の出合いをどのようにしていくかが

次のサロン活動へと続いていく基本であることは言うまでもありませんが、サロンを応援して下さる多くの皆様に盛り立てていただけたからこそ、今日のハサロン・あべのVが存在するのだと思います。

今年、出合い一〇〇回、サロン紙一〇〇号、来年は十周年等と節目を迎えます。これからも好奇心と素直な心を持ち続けて、サロン活動に携わって行きたいと考えています。

毎月の出合いと、そこへ参加下さった方々、おひとりお一人との思い出は尽きませんが、出合い一〇〇回を機に過去一〇〇回の出合いをかけ足で振り返って参りました「はあとが はろー」を終わらせていただきます。

書き切れなかった多くの出合いにつきまして、「あれは、どうだった?」とお尋ねいただければ、別の機会にお話させていただきますので、よろしくお願ひします。

長い間ご清読、ありがとうございます。どうぞ、今後ともハサロン・あべのVをよろしくお願ひ申し上げます。(完)

美智子のこんな話



岸田 美智子

施設障害者への

ガイドヘルパー制度適用について

前回はライフ・ネットワークの四年半の活動経過を掲載させていただきましたが、この間、ずっと訴え続けているガイドヘルパー制度の施設障害者への適用問題について、今回は大阪府の言い分と私たちの言い分をわかりやすく箇条書きにしてみました。その結論はのびのびになっていきましたが、この七月にやっと出る様です。

少なくとも秋の補正予算で、実現していきたいものです。では、言い分をゆっくり皆さま読んでみて下さい。

◆行政の言い分

施設は遠くにあるのでヘルパーがしんど

い。施設のある市が実施すればいいか、もともと住んでいた市が実施すればいいか、が難しい。

施設には経費(措置費)を支給しているもので、それを使って施設が外出介護を行うべきである。介護制度は在宅障害者が対象なので、それを適用すると施設の措置費と保障がだぶってしまう。

家と施設の往復や、帰宅中の家からの外出なら、ガイドヘルパー制度を使えると思う。

◆こちらの言い分

遠くにあるからこそ外出介護のしつかりとした保障が必要。

施設では圧倒的に職員が足りず、個人の外出介護までとても手がまわらない。

外出は施設から離れられる自由な時間なのに、それさえも施設の管理下に置かれてしまう。

今でも外出先をいつわらなければならなかったり、重度障害者は外出を止められたりしている状況があり、施設まかせでは外出は広がらない。

家では介護できないため、家になかなか帰れない状況があり、もう親が死んで家

のない障害者も多い。家をかためての外出ならほとんどの施設障害者が制度を使えない。

◆この間の状況

これらのやりとりの結果、昨年夏の交渉でようやく府は「今年の春から実施する」と約束した。しかし、「施設に措置費をはらっているので施設に外出介護させるべき」という意見が府内部で多く、この春も実施は見送られた。

現在、秋の補正予算で実施するよう強く要求している。

感謝します

カンパ、お茶菓子、紅茶、砂糖、冊子、バザー用品々等、のご寄贈。

一筆箋、絵葉書等、お買い上げありがとうございました。お礼を申し上げます。

岡 知史、小倉寛一、河合恵子、カプリース、木谷 登、西面壮一、田平雅之、竹村定子、松本聡美、

山本篤江、匿名四名 (敬称略)

○六月のカンパ 金三三三三二五円



サロン隣組ニュース

6月19日に淀川区に、7月17日に東淀川区に、相次いで<サロン>が誕生。

<サロン・あべの>と同じように毎月の出会いが予定されています。

こういった隣組のニュースを中心にこの欄を作っていきたいと思っています。

■「サロン・淀川」誕生!

大阪市内で、われらが<サロン・あべの>のようなグループが、淀川にも出来ました。

その名も「サロン・淀川」。

出会い・ふれあい・助け合いをテーマにして「社会的障害をもつ人も、もたない人も、年齢や男女の違いもなく、みんなが地域の中でお互いに語り合い、学び合い、ともに暮らせる地域社会となるよう・・・」にとの希いを持って、毎月第三日曜日午後

に定例会が開かれます。

第1回目は、6月19日(日)午後1時30分~3時30分、淀川区民センターで開催されました。

コミュニティ新聞「ザ・淀川」編集長の南野佳代子氏に「地域コミュニケーションについて」の話を伺いました。<サロン・あべの>からは、3名が参加しました。

○第2回「サロン・淀川」7月の出会い
7月17日(日)午後1時30分~3時30分
場所・淀川区民センター

パネラー・足利あや子氏(やまんば文庫代表)
問い合わせ先
☎06-306-2900(淀川区社協)

■「ウイズ・東淀川」7月の出会い

7月17日(日)午後2時~4時
場所・東淀川会館ホール4階

「ミニコミ紙ぼぷりとの出会い」
講師・吉崎愛子氏(ぼぷり編集長)
☎06-370-1630(東淀川区社協)

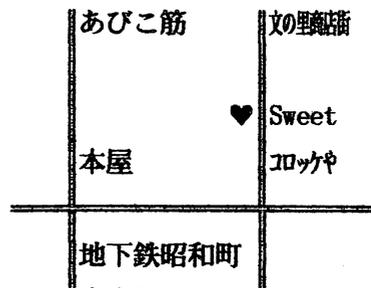
Sweet 開店

今年の2月の出会いで「色の不思議な世界のお話」をして下さった福永享子さんが、このたび下記のところでアクセサリーやオシャレな小物、Tシャツ等を販売するお店「Sweet」を開店されました。お近くへ行かれたおりに、ちょつとお立ち寄りいただき、おしゃれで素敵な出会いを楽しんでみて下さい。

場 所・大阪市阿倍野区昭和町
1-21-12

[文の里商店街南入口から2軒目西側]

↑至あべの



↓至あびこ

海外から

お知らせ

この度、韓国の馬泰植（マーティシ）氏より、＜サロン・あべの＞に文通の希望が寄せられました。馬氏は、「韓国障害人奉仕協会」の国際部の委員をされており、日本の障害者の生活を皆さんとの交流を通して知りたいといっておられます。

「韓国障害人奉仕協会」では、在韩国障害者のために、社会に対しての啓発活動をはじめ、結婚・健康・就職・学業・法律等の生活全般の相談をうけたり、これを各専門家による部門別の援助をするなど、幅広い活動をされています。また、広報活動や交流会等も充実されている様子が送付いただいた同協会誌から伺えました。

一番身近なお国です。今後の交流を楽しみにしたいと思います。（協会誌を翻訳して下さった大矢知誠氏に感謝します）

内容 『さろん亭』（サロン・あべののバザー店）、「あべのカーニバル」なんでも市どおりに開店

日時 八月七日（日）午後一時～（販売開始は、午後三時から）

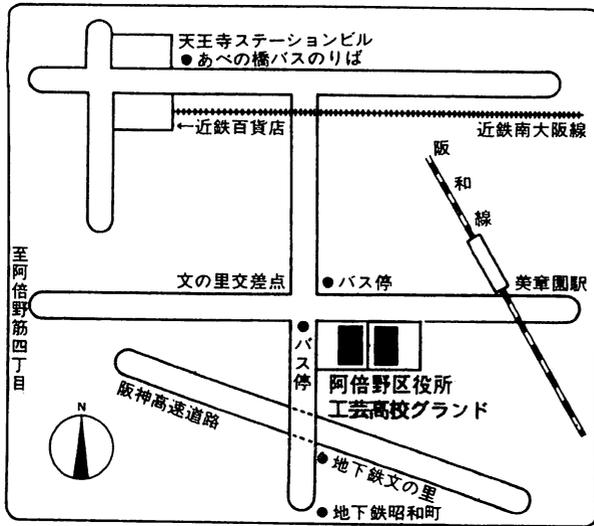
場所 市立工芸高校グラウンド、及びその周辺

その他 なんでも市以外にも色々な催しが盛りだくさんです。（雨天中止）

＊お願い

- ・ 物品を寄贈してくださる方。
- ・ 準備を手伝ってくださる方。
- ・ 販売を手伝ってくださる方。
- ・ 買いに来てくださる方。

ご協力をお願いします。



お問い合わせ先

☎〇六―六九一―〇二八（富田慶子）

編集後記

もう一度、5頁の百人一語大募集をみてください。これをあなたの出会った人、ふれあった人に広げてください。いっしょになって大募集してください。あなたの口コミは大きな力です。もう、アミダくじでサロンが当たりましたでしょうか。よっしゃ やったるでと思われみなさま、しっかりサロンを当ててください。（石）

編集人；サロン・あべの運営委員会・＜サロン・あべの＞NO.97['94. 7.16 発行] 定価¥100.
 代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303. 電話06-621-4365
 連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028
 表題；斉藤孝文・筆
 印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL. 06-691-2365.

一九九一年九月三日第二種郵便物認可（毎日発行）